WA!

No.28

第５１回報恩講子ども大会開催報告

後期指導者学習会
発達障害の子ども達に対する理解と接し方

編集長のイチ推シ！
筆の里工房で筆づくり体験

わのわっぱなし　どうやったら仏様になれるん？

少年教化の目的の一つに一人一人の子どもにとって活きた仏法を伝えていくことが挙げられると思いますが、実際どのように伝えていくか思い悩む指導者は多いのではないでしょうか。私自身もその一人ですが、ある指導者研修会で、「子ども達に法話をする時には、子どもだからと言って、オブラートにつつんだような話ではなく、ご法義を直接的に伝えるよう話をすることが大切である」という話を聞きました。それは、得てして子どもだから理解できないのではないかという先入観の中で法話をしがちであるが、存外子ども達はご法義の話を理解できるのであって、少年期にそういうご縁を努めて結んでいくことが大切であるという趣旨でした。この講義後、実際にご法義へ重心を置いた法話を心掛けましたが、本当にこれでいいのか、もう少し道徳に寄せた話の方が、伝わるのではないかと思うこともしばしばでした。

しかし、ある時子ども会の中で、有限な私たちの命に対して仏さまは「無量寿」という尽きることがない「いのち」という法話をすると、ある子どもが限りないいのちということに関心を向けてくれたようで「どうやったら仏様になれるん？」という予想外の質問をしてくれたのです。少々、子どもには理解しがたいと思える話でも、その内容をしっかりと受け止め、そしてさらにその時に感じた疑問を投げ掛けてくれたのです。

大学時代、自分自身真宗学を学ぶことに対して意欲を持てなかった時期があり、その時、恩師の一言が大きな転換点となりました。「君たちが真宗学を学んでいてなぜつまらないと感じるのか、それは疑問がないからだ」という言葉です。それは自分にとっての金言でした。疑問というのは単なる言葉の意味に留まらず「自己にとって」という視点を伴った疑問です。客観的ではなく主体的な問があってこそ、自らの上に活きた学びとなってくるということを伝えて下さったのでしょう。これは、法を伝えていく上においても重要な視点ではないでしょうか。子どもに主体的な疑問を持ってもらうという点を意識していくことで、より少年教化活動の理念に適った法話となっていくように思います。それはなかなか容易なことではありませんが、子どもにとっての仏縁をよりよいものにしていく心掛けを大切にしていきたいと感じます。

（志和組照榮寺 井口英隆）

子どもの声が聞こえるお寺に

第５１回報恩講子ども大会

平成３０年１０月２７日（土）

２２単位会３４５名の参加がありました

平成三十年十月二十七日（土）、本願寺広島別院にて、平成最後の「第51回報恩講子ども大会」が開催されました。例年通り、開会式で「らいはいのうた」のお勤めを行い、ご法話をお聴聞しました。また、わいわいランドでは沢山の子どもたちが食事やゲームコーナーを楽しんでいる様子でした。

アトラクションの時間は、高田北組専徳寺の住職でもある安部亨さん（TOORU）をお招きして、ヒューマンビートボックスを披露していただきました。ヒューマンビートボックスというのは、ご存知ない方もいらっしゃるかもしれませんが、楽器を使わずに、声だけでドラムやトランペットなど色々な音を出す音楽表現の一つです。

TOORUさんも、様々な音を重層的にリズムに乗せて、ズンズンズン♪、パラッパー♪（言葉で表現するのは難しいのですが）と演奏表現され、参加者は目の前で見て聴き、大変驚いている様子でした。また、子どもたちに人気のユーチューバー、ヒカキンさんの物まねなども聴かせていただきました。

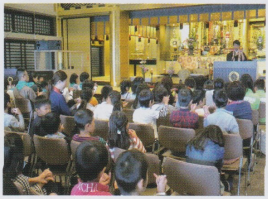
後半では、ヒューマンビートボックスのやり方を教えてくださり、やってみたい子がステージに上がり挑戦しました。しかし、なかなかTOORUさんのように演奏表現するのは難しい様で、マイクで大きな声を出すことを楽しんでいる様子でした。

ご参加くださった皆様、お手伝いしてくださった皆様、誠にありがとうございました。

開会式

善徳寺慈光土曜学校の倉本紗希さん・倉本心さんの調声でらいはいのうたをお勤め

法話



高都持大道先生による法話

わいわいランド

わいわいランドスタッフの方々

アイスクリーム

別院の境内ではたくさんの友だちと食事を楽しみました

スーパーボールすくい

射的ではみんな真剣な表情です

カープ折り紙で折った折り鶴は後日平和記念公園に届けられました

ストラックアウト

閉会式

キャンディー募金は20,948円

参加者の子どもたちもボイスパーカッションにチャレンジ

アトラクション

参加者一同、次々と出て来る色々な音に聞き入りました

安部亨さん（TOORU）のボイスパーカッション

study

後期指導者学習会

発達障害の子ども達に対する理解と接し方

平成３１年２月２８日（木）

於：本願寺広島別院 大会議室

NPO法人ひろしまレクリエーション協会理事長の砂橋昌義先生

身体を動かしていくつかのレクリエーションを体験しました

ご自身の色々な体験を基にお話をいただきました

安芸教区少年連盟では様々な講師をお招きし学習会を開催しています。是非連盟への加盟登録をお願いいたします。

後期指導者学習会をNPO法人ひろしまレクリエーション協会理事長の砂橋昌義先生を講師にお迎えし、「発達障害の子ども達に対する理解と接し方」をテーマに開催しました。

砂橋先生はダウン症の息子さんと歩まれた３５年の経験とレクリエーションの取り組みについて次の通りお話しされました。

私たちが人と関わる時、言語によるバーバルコミュニケーションと、気持ち・態度・雰囲気など言語以外によるノンバーバルコミュニケーションの二種類があり、特に言語以外のノンバーバルコミュニケーションが重要となるため、常に態度や雰囲気を意識しておくことが大切である。

また、人が物事を認知する方法として、①聞く②話す③読む④書く⑤計算⑥推論、の方法があり、その中で「聞く力」が一番重要である。しかしながら、発達障害を持つ人にはこの「聞く力」が弱い人が多い。「聞く力」の正体は「記憶」である。「記憶」するためには次の３つの方法がある。

a. 体で覚える、書いて覚える・・・・・・・動作性記憶

b. 見ただけで覚える（成績の良い人）・・・視覚的記憶

c. 聞いて覚える・・・・・・・・・・・・・聴覚的記憶

長く覚えておくことにあまり意味はないが、ちょっと覚えておくことが重要である。しかしながら、自閉症などの発達障害の子どもは少しの間覚えておくことが苦手であり、難しい説明や言葉は頭に残らないので、一言で言うとどういうことかということを常に考え、何かを伝えたり指示する時には、短い言葉でゆっくりと丁寧に伝える事が大切である。

遊びは心と体の栄養であり、遊びの中で体のバランスの取り方などの体幹を鍛えられることはもとより、社会の情報やルール、友だちとの人間関係など、色々な事が経験できる大切な機会であると遊びの重要性について教えていただきました。

先生は幼少期にお寺で楽しく遊んだ原体験がレクリエーション活動を始められた原点であり、レクリエーションは人の生きる喜び作りであると話されました。私たちのお寺での日曜学校などの子ども会活動が、お寺に来る子ども達の喜びとなり、豊かに生きるための原体験となるのだと改めて思わせていただくご縁でありました。

ナモアミ学習帳

書いて味わう写経ノート

らいはいのうた

正信偈

・大人も子どもも使える写経ノート

＊初めはお手本をなぞって書きます

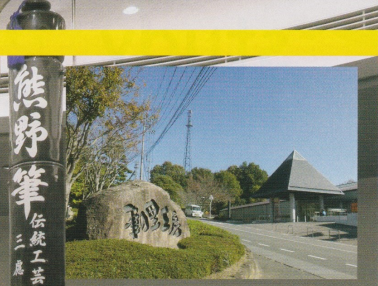
＊次は自分で書いてみます

・ご門徒の皆様にも喜ばれています

安芸教区少年連盟（本願寺広島別院内）にて頒布　　２００円

編集長のイチ推シ！

筆の里工房で筆づくり体験



筆の都・熊野町

筆の全国生産の約８割以上を占めている広島県熊野町には「筆の博物館」として親しまれている「筆の里工房」があります。

改修工事を終えて、２０１９年４月にリニューアルオープン。遊びを通じて筆文化を体感できる「体験コーナー」が新設されました。見て・触って・作って・書いて・塗って、遊びながら体験することで、様々な種類の筆に触れて学べる、大人も子どもも楽しめるコンテンツが追加されました。

長年筆作りをされてきた伝統工芸士さんの実演や貴重なお話、そして筆づくりは驚きと発見の連続でした。子ども達の学びと経験の場としてもいい機会となるのではないでしょうか。

筆の里工房

住所
　広島県安芸郡熊野町中溝 5-17-1
電話
　082-855-3010
開館時間
　10：00 ～ 17：00
　（入館は 16：30 まで）
定休日／休業日
　毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、
　年末年始
料金
　大人：600 円 (500 円)
　小中高生：250 円 (200 円)
　幼児：無料
　※カッコ内は 20 名以上の団体料金
ホームページ
　http://www.fude.or.jp

書筆のお手入れ方法

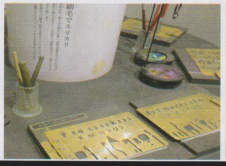
・穂ははじめ、糊で固めてあります。水やぬるま湯でよく糊を落としてから使い始めましょう。
・使用後の筆にはキャップはしないでください。穂が腐る等の原因になります。
・使い終えたら、水またはぬるま湯ですぐによく洗いましょう。穂を痛めることがあるので洗剤は使用しないでください。
・洗った後は、穂の形を整え、つるしてよく乾かします。

（筆の里工房パンフレットより）

体験コーナー

リニューアルで新たに新設された「体験コーナー」。遊びながら筆にさわり、筆文化を体感できます。

刷り込み刷毛とパステル・ステンシルを使って紙に模様を色付けする「刷毛でスリスリ」や大型の水書板に大きな筆と水を使って書く「筆で水遊び」など、色々な体験コーナーがあります。



熊野筆セレクトショップ

ショップは入館口手前にあるので入館料金は不要です。
ここでは約 1500 種の筆を試筆し、買い物が楽しめます。
化粧筆もたくさん揃っています。
筆選びに悩んだらスタッフの方が優しく教えてくださいます。

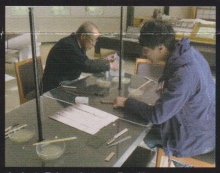
筆作り体験レポート

筆づくりの 12 工程のうち「衣毛（上毛）巻き」と「仕上げ」の２つの工程を体験できます。
１週間前までに予約をすれば、筆の軸に名前を彫刻していただけます。
職人らしく作務衣を着て体験することもできます。

所要時間　60 分
受付時間　10：00 ～ 15：30
参 加 費　3,500 円（入館料別）
　※ 20 名以上 500 円割引
講　　師　伝統工芸士
そ の 他　5 名以上は要予約
　（7 名以上は 2 週間前までに要予約）

その① 衣毛巻き

筆作りに使う道具。本格的です。伝統工芸士の赤翼剛さんに筆の作り方や熊野筆の歴史など、詳しく教えていただきました



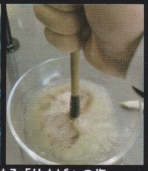
まずは「衣毛巻き」。「半差し」という道具で上質な馬の衣毛を均一に広げます。なかなか難しい…

あらかじめ形が整えられた穂首の芯の周りに、均一に広げた衣毛を巻いていきます

その② 糸締め・くり込み

毛の根元を麻糸で結び焼きゴテを当て、すばやく焼き締める「糸締め」。筆管に穂首をすえつける「くり込み」という工程。伝統工芸士さんのプロの技を間近で見ることができました

その③ 仕上げ



穂首に糊をたっぷりと含ませる「仕上げ」の作業。糊の入った器に筆を押し当て、筆に糊をたっぷり含ませています

たっぷり芯に糊を含ませた後、余分な糊を搾ります

筆を回転させながら穂先に巻きつけた糸を引っ張り、糸で搾るようにして筆の余分な糊を落とします

完成

名前が彫刻された世界に一本だけの筆が完成

発行日／ 2019(令和元）年 12 月 1 日　発行所／安芸教区少年連盟　広島市中区寺町 1-19 本願寺広島別院　代表者　委員長　久保田城郷　●安芸教区の HP　http://aki.or.jp/